

FIDIC-Young Professionals Forum (YPF) Steering Committee Meeting

FIDIC-若手専門職フォーラム 運営委員会

Future Leaders Workshop 将来のリーダー ワークショップ

Young Professional Open Forum 若手専門職 討論会

(株)日水コン

下水道事業開発部 担当部長

技術研修委員会幹事・国際活動委員会 秋永薫児

FIDIC-Young Professionals Forum (YPF) Steering Committee Meeting

9月12日12時より行われたステアリングコミッティ(SC)ミーティングには、新旧メンバー及び私を含めて10名がテーブルを囲み、加えてSkypeにより3名の参加があった。今年の改選は3名の交代、4名の新規メンバーで行われ、メンバーは10名となった。Chairは昨年同様、Richard Stump氏(米国)で、新SCメンバーは次のとおりである。

2007-08 FIDIC YPF ステアリングコミッティメンバー

番号	氏 名	国	備 考
1	RichardStump	米国	Chair
2	Alex Eyquem	英国	
3	Nader Shokoufi	イラン・イスラム共和国	
4	Michela Diracca	イタリア国	
5	Saul Martinez	オーストラリア国	
6	Liu Luobing	中国	新規
7	Prashant Kapila	インド国	新規
8	Michele Kruger	南アフリカ共和国	新規
9	Leon Botham	カナダ国	新規
10	Rick Meynen	オランダ国	新規

会議は自己紹介とSCの組織、過去の活動などについて、議長のStump氏が説明を行い、議題は、今後の活動内容、FIDIC大会午後のYP関連日程について確認され、新メンバーからの質問に議長が回答した。今後の活動の焦点は、FIDIC大会前にYPに対していかに活動の情報を伝達し、ネットワークを広げていくかであった。ニュースレターの発行もすでに行っているが、配布先は限られている状況とYPMTPとの関連およびFIDIC事務局との連携をどうして行くかについても議論された。YP Open Forumについても北京大会から行って、まだ改善していく余地がたくさんあり、今後のアイデアからよりいいものを作っていくことで、意気が上がった。YPネットワークに関して、来年はメンターの交代があるので、YPFとYPMTPのネットワークをつかさどる役目を提案するいいタイ

ミングであると提案した。SC 設立当初には各委員会に YP を配置する計画もあったことを伝え、今後の活動における参考にしてもらった。

11 月までに YP のための Business Plan を作成し、FIDIC に来年ケベックでの活動内容として提示し、議論を進めながら実施に向けて準備を進めることとなった。Skype による会議は毎月行うこととなり、SC 新メンバーによる最初の会議は 10 月 11 日と予定された。

Future Leaders Workshop

FIDIC YPMTP の研修生がその 7 ヶ月の研修成果を発表する場所として提供されており、それを元に会場内で討議が行われた。今年の研修トピックスは

1) Organization and Human Resource Development、2) Ownership Structures

3) Marketing of Consulting Services 4) Multicultural Management
であり、35 名の研修生は地域をベースにチームは 3 つに分けられて、それぞれで研修が行われた。FIDIC 大会開催 3 日前から集まり、バーチャル討議の結果を元に、さらに全体としての討議とまとめを行い、メンターからもらった意見、提案などを参考にこのワークショップ当日まで発表用資料の作成に時間を費やしていた。

研修生から代表の一人が司会をし、その他 4 人の発表者により、

Sustainable (持続可能性 - 経済と環境) People (人々 - 人材)

Market (市場 - 業界) Corruption (腐敗 - 文化・習慣)

と題して研修成果をまとめ、彼らの考えを発表した。各自 10-15 分程度の短いものであったが、膨大な議論と報告書の内容からポイントを絞り、発表していたことが伺えたが、単純明快でわかりやすい反面、主張がいまひとつ見えないところがあり、戸惑いや意見のまとめが難しかったことを窺わせた。発表の中で、Sustainable であるためには、経済、環境、歴史、文化への配慮、世代間で引き継がれる公平性とプロジェクトへの責任が必要であること、People については、エンジニア不足が世界的に深刻であり、Young と Experienced (経験者) 会社-業界-協会のパートナーシップ、仕事と生活のバランスや仕事の成果を通して得られる名声についても人材を確保していく大事な要素であるとしていた。Market については、業界としての活動には Trend Watching が大事であり、Tailor Made であるこの仕事にとって、品質と価格のバランスのとり方が難しいということ、社員は目であり耳であるので、よく聞き、話し、ネットワークを持つことが大事であるという内容である。Corruption については、FIDIC の進める BIMS や教育、意識、倫理などが挙げられており、腐敗を行っていないことの誇りを持てることが肝要である、ということに行き着く。

いくつかの質問が出たが、その中で、ストーリーテラー、方向性を示すという点で議論がされ、将来の姿やあり方についての意見が出された。明確な結果や答えを求めているわけではなかったが、与えられたテーマの検討を通じて、数人からのコメントが出されていた。そのほか、Corruption について、メキシコの方から実態は提示されたようないろいろなマニュアルや倫理規定などが存在し、適用されているがうまく言っていない、しかし、発表

で示した最後は「人」である、という点には強く賛同した、というコメントが寄せられた。

最後に、オーストラリア協会から、小学校に配布（販売？）している CE の宣伝 DVD を短く編集したものの上演が行われた。エンジニアの紹介、その仕事ぶり、建設された施設などの紹介がされ、なかなか面白いものであった。一般市民への CE の宣伝、啓蒙活動をすでに行っていたオーストラリアに改めて敬意を表した次第である。

Young Professional Open Forum

YPF の議長である Richard Stump 氏より、一緒にグローバルな YP のコミュニケーションを作っていこうとの挨拶があり、シンガポールの YP 代表者たちに感謝の意を示した。この Open Forum は YP の自由な討論の場所でもある。3 人の講演者の発表に先立ち、YPF の SC について紹介と説明があり、YPMTP の指導を行ってきた Steen Frederikson 氏へのねぎらいと、2004 年のコペンハーゲン大会から続いてきたネットワーキングについてこれまでの努力と成果について、報告した。

講演は 南アフリカの YPF 活動、 オランダの YPF (Yonri) の概要、 イランの YPF のこの 2 年間での活動報告が行われた。

南アフリカの YPF では、ゴルフ大会や音楽会などのさまざまなイベントとあわせて活動しており、YPF のニューズレターの発行、セミナーなど活発である。南アフリカでは、急速な建設業界の成長、世代間のギャップ、若手技術者の質の低下などの問題があり、学生との交流、メディアの利用、記念日や記念週などの設定といった対応をしている。地区の委員会、会員のデータベース化、メンターシップ制による指導にも力を入れている。

オランダの協会では、322 人の YP が登録され、ニューズレター等を受け取っている。若い世代はシニア世代に比べ個人主義的であり、インターネットによるコミュニケーションを得意としている。この状況から Generation Learning や社内、業界内へのネットワークを広げていこうとしている、と報告された。YPF への参加の利点として、ほかの YP やシニアとの戦略的な活動やニュートラルな分野での他社との交流が行われることをアピールして、会員増強、ネットワークの拡大を図っている。

イランでは、1972 年に設立されたイラン協会の中に、2004 年に YPF が組織され、急速な発展と活発な活動を行っていることが報告された。彼らは Young Managers と称して、意見交換や技術のみならず科学の知識も増やそうとセミナーなどを行っている。これまでのセミナーでは、宇宙技術、労働法、人材育成、持続可能な開発といったことをテーマにした。また、FIDIC の PSM、White Book の翻訳や協会誌への投稿もしている。そして、協会の本体との協同、関係を強め、国内外における活動の場を広げようとしている。今年 5 月に開催された国際セミナーは 2 日間に亘り行われ、80 名程の参加者があり、海外からは私（秋永）が講演者として参加し、3 つのプレゼンを行い、2 つのワークショップに参加した。現場見学会の企画や今年イランから YPMTP に 4 名が参加し、YPF の SC にも代表者が参加していることも報告された。今後も更なる活動を予定しており、国際セミナーの 2 回目も計画され、国外との交流もより活発に行いたいとしている。

講演後、参加者との意見交換が行われ、オーストラリアやスウェーデンからの参加者からもそれぞれの YP 活動について報告などがあった。また、FIDIC の作成しているキットの活用についても、今後の課題として提案された。